

色 は 匂 へ ど

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 飯島太千雄 書聖空海を語る

平成九年弥生一日発行 巻式



PHOTO SHU FUJIWARA

心の情報誌「色は匂へど」春弥生号をお届けいたします。
おかげさまで創刊号も大好評で、数多くの励ましのお便りを頂きました。心より御礼申し上げます。

三月に入ると、空気が急に春らしくなります。
草花が咲き始め、木々も芽吹き始めます。

皇居の柳の新芽の緑に桜の木々も色づき、いかにも弥生の風情です。

しかし、ここ数年縄文の遺跡が多く発見される中で、弥生の象徴ともいえる日本の豊かな田園が荒廃しています。

減反という心ない行政によって、また都市の中に残る田畑には市街地並の課税をして荒らしていきます。

さらに緑の多い住宅地も過酷な相続税によって、加速度的にその緑と地域社会を減らしています。

地球にやさしいとか緑豊かな行政というスローガンはどこを見ているのでしょうか。

さて五月には端午の節句を迎えます。

菖蒲湯は邪気を祓うといわれます。

旧暦の五月五日は西暦九七年六月九日です。

このころの菖蒲がもっとも生気に溢れています。



日本の心と形

端午の節句のお飾り

3



特集

飯島太千雄

書聖空海を語る

5



子どもと楽しむ
藍の生葉染め

9



真言密教への誘い

11



現代の道しるべ

13



インターネットで届いた
読者からの手紙

14



日本のこころと形

端午の節句を祝う



TEXT&PHOTO SHU FUJIWARA

端午の節句

端ははじめのこと

午は五に音が通じることから
五月五日を

端午の節句といひます

このころはもつとも日差しも
強くなり 菖蒲やあやめが
勢いよく咲き競います

日輪がもつとも輝く季節に
蓬やちまきまた柏餅を
いただき お風呂には
菖蒲の緑豊かな葉をいれ
菖蒲湯にして邪気を祓います



四国では家族の数だけ
鯉のぼりを上げます

五月晴れの青い空に
鯉が勢いよく泳ぐ姿は
爽快です

家には兜や鎧などを飾り
子どもたちの
健やかな成長を
祈ります





福丸の福



書聖空海を語る

空海は、世界の書道史上唯一の天才。
宇宙的な空海の書の魅力を
飯島太千雄氏に聞く。

飯島先生と空海の書の出会いはどんなご縁ですか。

京都に森田子龍という国際的な書家がいまして、大型の美術雑誌『墨美』を出しておられました。そこで空海の『灌頂記』について論文と写真を出さないかというお誘いを受けました。

76年ですね。

ええ。それから空海研究にのめり込んでいきました。七冊かな。空海の研究論文を『墨美』に発表しました。ぼくが書をクローズアップして撮影したのが皆様にとっても感動的だったようです。

クローズアップすることで書の全く違った世界が見えてきますが、クローズアップしようという動機は。

若いときには映画を撮りたいという夢もあって。映像感覚というのか。ファインダー越しに見ると違って見えるんです。肉眼で見えなかったものが見えてくる。拡大すると、筆の凄い複雑な動きとか表現力とかまで見えてくる。書が苦手という方でも、これを見るときとても感動されます。

この『灌頂記』の魅力は。

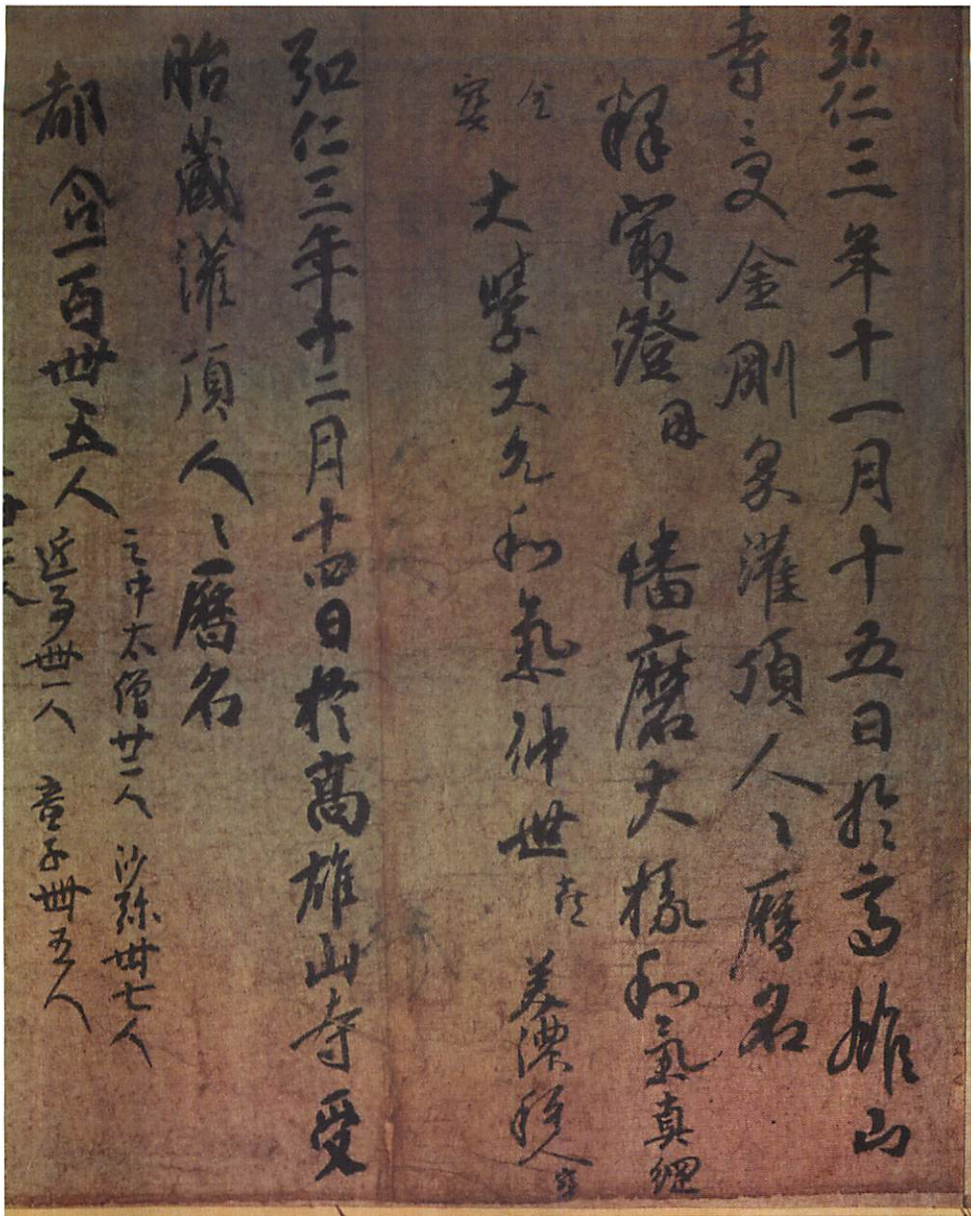
一番凄いのは『福丸』の『福』です。書は筆の運動ですから必ず線に方向性があります。ところが此の書には方向性がないんです。つまり、筆意が全方向に宇宙的に、ジワーっとにじみ出している。

宇宙的にですか。

中国の書法の言葉で『八面出鋒』^{はつめんしゅほう}といいますが、本当に精神が充足して、また技法を超えるだけの技法があって、そういう心

日本書道史上最高の名筆と伝えられる灌頂歴名

これを千二百年の時を超えて手から手へ伝承された私たちは何を学ぶべきか



国宝 灌頂歴名 京都 神護寺 撮影飯島太千雄

弘仁三年京都の高雄山神護寺で行なわれた結縁灌頂を受けた人々の名が記されている
天台宗を開かれた最澄の名も記されている

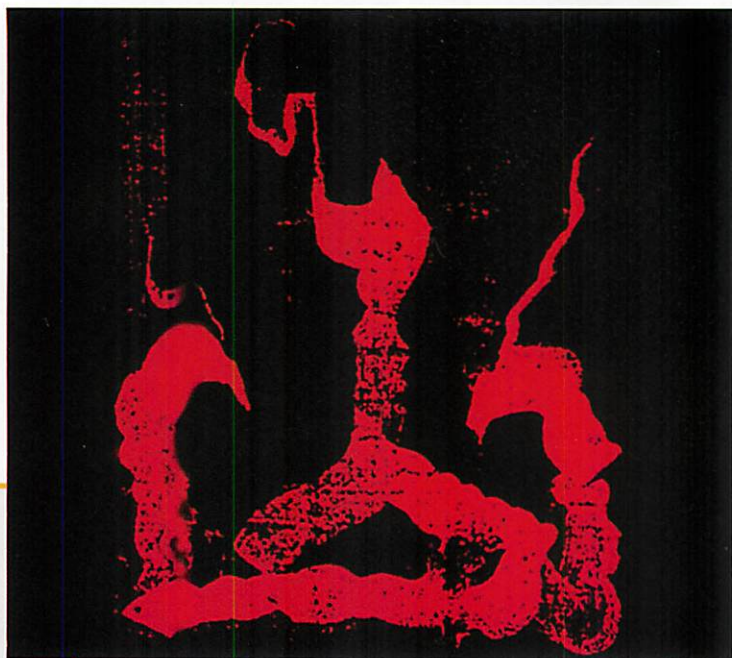
技一帯が人間の一番高いところで発動した時に引ける線だと思います。

さらに空海の書はとても多面的です。空海は技巧的な書もかける。最高級の美しく整った能書的な書。それに『灌頂記』のような技巧を超えた書。さらにもう一つあります。雑体書という世界です。梵字や飛白(ひはく)といった特異な筆法を用いたり、ひじょうに造形的な書法であり書体です。後年になるほど空海はこの書法を採り入れ、彼自身の世界、つまりマンダラ・密教の世界を書表現でも完成します。

書が思想や世界まで表しえることを。書に対してここまで高い認識を持ったのは、空海が古今唯一です。

書によって思想や宇宙まで表せるわけですね。

森羅万象をイメージして、その世界に自分を同一化してその後には自ずと形にしると。鳥なら鳥そのものをイメージして鳥という字を書きなさいと。これは密教の観想に通じており、つまり空海の書は密教そのものを表しているわけです。



空海の山



良寛の山

ですから空海の書は、とても広がりをもっています。一つの字が単なる記号や図案文字じゃなくて、もつと生き生きとした生きている形を超えたものになっています。

すこしわかりやすい例を。

一昨年、児童文学の翻訳をされている乾侑美子さんと子供向けの『漢字の絵本』（小学館）を三冊だしました。三千年の文字の歴史からインパクトの強い字を選んで、やはり圧倒的に面白いのが空海です。それと良寛。これは空海の『山』。

火山ですね。

これは誰が見ても火山です。文字がわからない外人に見せても火山といます。素晴らしいのはイメージが誰彼なくつながっていく。これが本当の文化です。

イメージがつながるのは空海と良寛です。子供に見せて通用する世界がある。そういう天才を二人ももっている私たちは幸せですね。書全体のレベルは中国の方がずっと高いと思いますが、書の世界をここまですくまらせた人は中国にもいません。それが日本には空海がいて良寛がいて、やはり日本の文化はすごいんだなと思います。だから私たちはとても幸せだし、それをもっとどん欲に享受すべきですよ。

最後に飯島先生の夢というライフワークはおありですか。すでに大変な業績ですが。

これはぜひ真言宗の皆さんのお力をお借りしたいのですが、二十世紀の人に伝えるべく弘法大師の書の集大成をつくりたいんです。今ま



漢字の持つ魅力を全く新しい視点でひもとく
親子でたのしめる漢字の絵本（小学館刊）

名品般若心経（小学館刊）

日本に伝わる心経の名品を美しい
カラー写真と楽しいイラストで紹介

書の世界ではどうでしょうか。
たとえば、お寺の扁額（へんがく）がありますね。
〇〇寺とか〇〇山とか書いた。この扁額を書
くというのは能書の誉れなんです。素晴
らしい字が書けるという。それを支えてき
たのは空海なくして語れません。江戸時代
の松川屋定信（貞伸）は扁額を何百と収録し
て、その中に僕が見ただけでも五〇から六
〇の空海もしくはその周辺の素晴らしい字
がある。真蹟かどうかということも大事で
すが、それ以上に空海の周りの字がすべて
第一級の書でしめられています。
草書でも、般若心経でも。空海が宇宙に燦

でに全集が二回でありますが、大師の世界は
そんな矮小な世界ではないんです。とんでも
ない宇宙的な規模なんだということを形に残
して次の人へバトンタッチしたいんです。
過去の全集に納まりきらない世界があると言
うことです。
空海という存在は単なる一個の存在ではなく
て、もう日本の思想、建築、芸術、学問、教
育、あらゆる面で大きな影響を与えた、空海
文化みたいになっています。この空海の総合
性を丸ごと理解しないと空海の意味を知った
とは言えないと思います。

飯島太千雄

1942年東京生まれ

学習院大学文学部仏文科4年中退

書家にして古筆研究家の飯島春敬氏を父に持
ち 幼い頃より名筆に親しむ

弘法大師書道研究の第一人者 自ら撮影した
准頂記のクローズアップは書道研究に新たな
地平を開いた

主著

弘法大師書蹟大成

王羲之書蹟大系

空海大字林

顔真卿大字典

良寛墨蹟大観など多数

その大きな世界を二十一世紀に伝えて頂け
れば有り難いですね。
空海にたいする恩返しとして。宇宙がこう
非常に近くなってきた、御大師様の世界と
いうのは理想的ですね。宇宙というものを
こっちへ寄せてくれる人というのは、空
海、密教だけでしょ。宗教の中で。

然と輝く星だとしたら、それを取りまく十
重二十重の銀河があるように、空海は第一
級のものに包まれています。

子どもと楽しむ藍の生葉染め

なまはぞめ



四歳の子どもの作品

藍は飛鳥時代には日本に伝えられました。どんな繊維にも染まりやすく、貴族から庶民にまで幅広く親しまれてきました。

藍というと紺色を思い浮かべる方も多いと思いますが、生葉染めは淡い青と緑の間に染まります。

三月の中旬に、藍の種を蒔きましょう。夏には元気な藍が茂ります。

上の写真は木綿のハンカチーフに藍の葉をおき、木槌でとんとん叩いてあとは陽に干すだけでできあがります。

次回は実際の染め方をご紹介します。夏休みの楽しい記念になります。



PHOTO&TEXT SHU FUJIWARA

絹の
スカーフも春に似合う
色になります。



少し工夫するとこんなしぼりもできます。



昨年できた藍の種

三月の中頃 お天氣のいい日に種を蒔きましょう



PHOTO SHU FUJIWARA

真言密教への誘い

日本精神文化史研究者 西宮 紘

大師様の「空海」という称号はどこからきているのだろうか。私は、「空」は金剛界を「海」は胎藏海をシンボライズしており、「空海」と称する大師様自身によって金胎不二を体現しているとひそかに考えている。しかし、これは遍照金剛として真言密教を宣布する立場になってからのことで、一介の修行僧であった時は何と名乗っていたのだろうか。

入唐という転換期以前の沙弥という身分とそれ以後の遍照金剛としてのそれぞれの立場に照応しているのが、私の中における京都神護寺金堂の薬師如来と東寺講堂内諸仏である。

如来様の場合、それ以前の奈良正統様式と異なる晚唐様式であるとされるが、この森厳な山岳に分け入って修行する雑密の沙弥を彷彿とさせる。しかも晚唐様とは言えどこか日本的なのだ。私の中の修行僧として的大師様はこのようなお姿であらねばならなかった。

なぜならば、真言密教の世界へ私を誘ったのはこの如来様であったからだ。

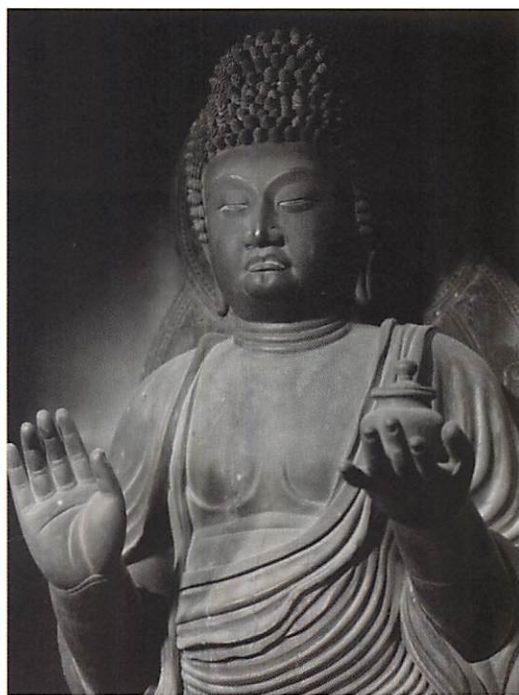


西宮 紘（にしのみや こう）

1941年2月17日生まれ
1969年 京都大学 理学部物理学科卒業

『空海－火輪の時空』 1984年 朝日出版
『縄文の地霊』 1992年 工作舎
『鬼神の世紀』 1993年 工作舎

現在、藤原書店から出版予定の『時空論』（仮題）
脳の問題から量子力学・相対性理論、宇宙論、
進化論、分子生物学、仏教等幅広い分野を時空
とその破れという観点から執筆中。



写真協力 神護寺 薬師如来立像

京大物理学科在学当時の私は、六〇年安保闘争へと盛り上がっていく学生運動に片足を突っ込み、マルクスの資本論やヘーゲルの大論理学などを読み漁り、一方では、物理学における相互作用の理論化という問題に直面し超関数論や演算子法など大学にない分野をさまよい続け、運動における実践と思想的な問題及び難解な学問の中で、更に付け加えるならば女性問題でもがきくるしんでいた。

だから、そういう苦しみを少しでもはらそうと、京都市街を取り囲む山々に分け入って、ただあてもなく彷徨するのが常であった。そしてたまたま高雄山に迷い込んだ折、私は神護寺の薬師如来に出会ったのである。その時の衝撃はいかばかりであっただろうか。その鋭い眼差しは私の心の奥底を見通し、また見抜かれていればこそ一種の爽快感を私にもたらす不思議な力を備えていたのである。

現代の道しるべ

文 阿部龍樹

ヨーロッパの町を歩くと花が眼にとまる。アパートやホテルのベランダには必ず花が植えられている。この花々は町ゆく人に楽しんでもらうためにそれぞれ工夫を凝らしている。

はじめは同じように見えたが、見慣れてくると、国によって、町によってまたそれぞれの通りによっても個性があるのがわかる。パリはやはり華やかで、ローマは粋な感じがするし、チューリッヒやウィーンは素朴な感じがする。

ヨーロッパの人々はよく散歩をする。夜の食事をすませ、夫婦あるいは子どもを連れて。個人主義の徹底しているフランスでは独り身の老人が多い。子どもは成人すれば家を出ていく。だから夫婦どちらかに先立たれると一人で生活しなければならない。そんな老人は犬を連れて、先立っていることが多い。ご主人がおしゃれだと犬もおしゃれにリボンを



PHOTO SHU FUJIWARA

る。こうした光景を眼にするのも、花が美しく飾られた通りに多い。花が自然と人を招くのだろうか。なによりも花の多い通りは雰囲気がいやだ。心もなごむ。

ニューヨークにはスラムがある。日本人の眼には廃虚かと思うようなアパートから子どもたちが飛び出してくる。

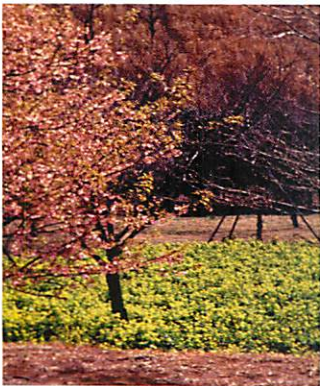
この町に、あるお婆さんが花を植えた。最初は悪戯をされたり、切られたりしたが、だんだん増やしていった。やがてその美しさで花を植えることの楽しさを知った近所の人たちも花を植えた。やがてその通りは花が溢れるようになった。みんなが花を大切にしようになった。するとこの町の犯罪の発生率が減って、子どもたちも学校へ通うようになったという。この話は誰に聞いたか忘れたが、いい話だと思う。

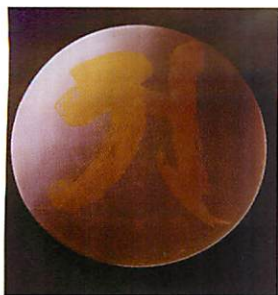
四月八日は花祭りだ。

花の咲きそうルンビニーの園で、お釈迦さまは生まれられた。奈良や京都の寺では生花で飾った花御堂が美しい。

美しい花御堂を見つけない旅に出るのもいい。

また日本中の寺々が花御堂を飾るといいと思う。





インターネットで届いた

読者からの手紙

新年明けましておめでとうございます



今年は、残念ながら帰国できなかったのも、米国の自室で一人静か

に昨年一年の感謝と、今年一年の健康と充実を祈りました。

三密会の瞑想の時のように静かな夜でした。瞑想しながら、ああ、阿字を観ながら瞑想したい、と思ったのですが、今日届いた「色は匂へど」の表紙が阿字観本尊の写真で、めぐりあわせの不思議を感じました。

「色は匂へど」は、とてもすてきな情報誌ですね。心が落ちつきます。

福岡氏のお話を読んでいて感じたのは、西洋文明の限界、ということです。西洋文明が無用というわけではなく、しかし、西洋文明も絶対ではない、ということです。福岡氏のおっしゃるように、西洋科学は、ものごとを原子のレベルまで分解し、それを再構築して現実を理解するもので、人と自然、人と人の関係も、法（法則）が前提となり、個（個人）が基本単位となりますね。しかし、アミニズムとか、アジア的価値観も別の、同等の価値観として（野蛮・劣等の価値観ではなく）再認識されてもよいように思います。

西洋人の文化、社会、生活は西洋文明とその精神に基づいているため、彼らはアジア的価値観を認めたがらないかも知れません。しかし、中国がアメリカのカウンターパートとなり、アジアが西洋社会と経済的、政治的に対等の立場になると、世界も大きく変わるかも知れませんね。

大塔建立のお話では、私は「空海の風景」を思い出しました。私はこの本を読むまで、お大師様は入滅されたのではなく、入定されたのだ、ということを知りませんでした。

私は、この本を読み終えたまさにその瞬間、奥の院のご廟で瞑想されているお大師様の姿が、くっきりとかび、その現実感に身の毛がよだつほどの衝撃をうけました。そして、それ以降、私の心の中には小さな炎が揺れ続けており、これがとても暖かいのです。私は、これをお大師様の炎だと信じることにしています。

三密会でこの本が話題になったとき、実は私は既に読んだあとだったのですが、この私の体験を、おおげさでないことばで説明できる自信がなかったので、何も話すことができませんでした。この体験については、私のホームページ <http://www.pitt.edu/~yoist2> にものせております（英語ですが）。いのちと心と環境の視点から、よい話があればお伝えしたいと思います。

帰国した折には、是非、シンゴン・ホロニック、リラクゼーションにも参加させていただきたいと思います。新年早々、長くなってしまいました。どうぞよいお年をお過ごしください。



ご家族、お寺の皆様によろしくお伝えください。

岩垂好彦

インターネットをつないで初めてのメッセージです。有り難うございました。この他にも沢山のお便りをいただきました。やがて読者のコーナーも充実させていきますので、感想やご意見をお待ちしております。

高野山奥の院への道

EDITORS ADDRESS ryuju835@ra2.so-net.or.jp



山芍薬 (YAMASHAKUYAKU)

PHOTO SHU FUJIWARA

この本はツリーフリーペーパーで作られています
さとうきびから砂糖を取り出したあとの 残った繊維から作られています

次号予告 六月一日発行

特集 吉岡幸雄が語る日本の伝統色

日本人ほど色の名前に豊かな表現ができる者はいない
日本人がもつ自然観を色から見つめる

Editor RYUJU ABE Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA Special Contributors/RYUICHI ABE KO FUJIWARA RYUICHI SATO
Editorial Staff/MIWA SAMURO TOMOKO MINOURA SEIRYU SATO KOJI TOKUMARU SIKYO FUJISAKI EISHIN TAKAHASHI KEIJI KOGA
KAZUFUMI MOTOYAMA Making Mechanic SANMITUSHA Printing KORINKAKU

PUBLISHER RYUBUN ABE EDITOR RYUJU ABE EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C
〒158 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979
Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第二号 平成九年三月一日発行